



No.113

2001-10-9

日本教育工学会ニューズレター

Japan Society for Educational Technology

事務局:〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-17-1 虎ノ門5 森ビル(視聴覚ビル) 2階  
電話/FAX:03-5251-2133 e-mail:jet-office@japet.or.jp  
日本教育工学会ホームページ http://www.japet.or.jp/jet/

ISSN 1340-9913

## 論文誌の論文等の著作権の帰属について

会長：清水康敬

編集委員長：坂元 昂

本学会編集委員会では、教育工学研究の成果を、本学会会員はもとより他分野の方々にもさらに知って頂き、活用して頂くことを検討してきました。

その一環として、国立情報学研究所電子図書館サービス(NACSIS-ELS; <http://www.nii.ac.jp/els/els-j.html>)に本会論文誌を登録することについて、編集委員会で検討して参りました。しかし、本サービスにおけるデータベースに論文等を提供するためには、論文等の著作権の取り扱いについて明確にする必要があります。そのため現在、編集委員会において、論文等の著作権の扱いについて、他の学会の例などを参考にしながら、慎重に検討を行っています。また、新たな取り扱いを反映した投稿規定を設けることを検討しています。

これについて、基本的には以下のような方針で検討しており、この方針は理事会でも承認を得ております。

- (1) 本件決定後の論文等の著作権は、採録決定の時点から学会に帰属するものとする。
- (2) ただし、著者自身による編集著作物への掲載や、著者自身等のWEBページにおける公衆送信は、学会の許諾を得ずにできるようにする。

詳細については現在さらに検討中ですが、上記のような基本方針やその具体化の方策について、ぜひ会員の皆様からのご意見をお寄せ頂きたいと思っております。ご意見は本会編集委員会までお知らせ頂ければ幸いです。

### 本号目次

論文誌の論文等の著作権の帰属について-----	1	冬の合宿研修会の案内-----	7
ショートレター特集号の案内、		夏のセミナー報告-----	8-9
論文誌特集号の案内-----	2-3	委員会名簿-----	10
研究会の案内(11/3)-----	4	第9期第2回理事会議事録-----	11
研究会の発表募集(1/26)-----	5	新入会員/学会日誌等-----	12
秋の産学協同セミナーの案内-----	6-7		

**ショートレター特集号の論文募集のお知らせ**  
**日本教育工学会誌 / 日本教育工学雑誌 Vol.26, Suppl.の発行**  
**論文受付締切：平成14年3月1日（金）編集委員会事務局必着**

日本教育工学会誌/日本教育工学雑誌 Vol.26, Suppl.は、年1回発行されるショートレター特集です。ショートレターの投稿規定および原稿執筆の手引きを参照の上、奮ってご投稿下さい。

1. 投稿原稿は、図表を貼り込み刷り上がりイメージで提出して下さい。
2. ショートレターは、刷り上がり4ページまたは6ページのどちらかです。5ページは受け付けません。
3. 締切前に投稿されたものから順次、査読致します。
4. ショートレターでは、筆頭著者(ファースト・オーサー)は本学会会員であることが条件です。あるいは、筆頭著者が投稿時に入会手続きおよび会費等を納入することが必要です。なお、各会員は本ショートレターは年1編に限り投稿できます。
5. 平成14年12月に発刊の予定です。

ショートレターの内容については、例えば、以下のような内容が考えられます。

- ・学会の大会や研究会で発表して、評価を得た内容
- ・教育実践をベースにした知見を研究的にまとめた内容
- ・教育工学研究としての速報的な内容
- ・今後発展する内容で、中間報告的な内容
- ・卒業論文や修士論文等として学生がまとめた内容、など

なお、ショートレターで掲載された論文をベースに、加筆修正してまとめたものを、学会論文誌に投稿することができます。

投稿論文の送付方法：普通郵便(書き留めにはしない)、宅配便、持参とする。

〒152-8552 東京都目黒区大岡山2-12-1 東京工業大学教育工学開発センター内  
機械系研究実験棟(石川台地区)4階 日本教育工学会 編集委員会

(Tel. 03-5734-3234 Fax. 03-5734-2994)

**論文誌特集号「教育実践研究における研究方法論」のご案内(第2報)**

すでにニューズレターNo.112でお知らせしておりますが、論文誌特集号「教育実践研究における研究方法論」を刊行することになりました。ここに再度お知らせし、広く会員の皆様からの投稿を募集致します。

皆様ご存じのように、「総合的な学習の時間」や教科「情報」などの新たな内容を含んだ新学習指導要領が、来年度(小・中学校)と再来年度(高等学校)から完全実施されます。またこのような教育内容の面ばかりでなく、通学区域や学級編成の弾力化にみられるように、学校教育をめぐる情勢の変化はめざましく、教育のあり方は、その内容、方法、環境のすべての面で、今後ますます大きく動いていくものと考えられます。そしてそれとともに、その背景にある、いじめ、不登校、学級崩壊のような学校教育の問題も決して看過することはできません。

このような状況にあって、教育工学研究には何が求められているのでしょうか。教育工学は、このような状況に対して、どのように貢献できるのでしょうか。

そもそも教育工学においては、理論的な研究成果を実践で応用するという technology push の方向ばかりでなく、教育実践面でのさまざまな問題、課題、ニーズが理論研究を促すという requirement pull の方向もあります。この二つの方向は、車の両輪のようにともに重要なものです。むしろ、この両方向がともに活発であればあるほど、教育工学研究は充実し発展するといえるでしょう。たしかにこれまでの日本の教育工学研究において、理論を実践で応用する方向が強かったことは否定できません。しかし今こそ、多様化する教育実践の現実を対象とし、そこでの問題を解決し課題を達成するような教育工学研究が求められているといえるでしょう。

もちろんそのためには、純粋に工学的な枠組みによる研究だけでなく、多様な研究方法が必要となります。しかし本学会ではこれまで、大会の課題研究やシンポジウムなどを通して、教育工学の多様な研究方法論の発展のために、積極的かつ継続的に議論を行ってきました。それを通して、教育実践を対象とする新たなアプローチを学会の中に育ててきました。

そこで今回、教育実践への教育工学の貢献のあり方を探るとともに、教育実践を対象とした多様な研究のあり方の提案の機会とすることを目的として、「教育実践研究における研究方法論」をテーマとする論文誌特集号を企画し、下記分野における論文を広く募集することになりました。この分野で研究を進めてこられた会員ばかりでなく、実践を対象とした新たなアプローチを試みようと考えておられる会員も、どうかふるってご投稿下さるようお願い致します。

#### **1．対象分野：**

「総合的な学習の時間」や「教科『情報』」など、新教育課程に対応する教育実践研究、学校と地域との関連を対象とした実践とその研究、学校病理といわれる今日の様々な問題や弾力化される教育の新たなあり方を対象とした研究、高等教育における実践とその研究、情報メディアやネットワークを効果的に利用する教育実践とその研究、教育実践を対象とする新たなパラダイムによる研究方法論、教育実践におけるポートフォリオなどの新たな評価、教育実践とその研究を支援するシステム開発とその方法論、教員のための実践研究方法論、教育実践や研究方法論に関連するその他の内容。

#### **2．募集論文の種類：**

通常の論文誌と同様に、「論文」「資料」「研究速報」を募集します。投稿規定ならびに査読手続きは通常の論文と同様です。今回の特集号では、とくに優れた新奇性が認められる「資料」や「研究速報」を積極的に募集致します。

なお、通常と同様、ショートレターとして既に掲載されている内容を、発展させて論文として投稿する事も可能です。

#### **3．論文投稿締め切り日：**

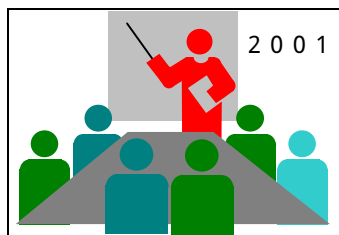
2002年2月1日（2002年12月刊行予定）

#### **4．論文送付先：**

日本教育工学会編集委員会事務局

#### **5．問い合わせ先：**

同上



## 研究会の開催

### テーマ Information Technology と国際協力

日時：2001年11月3日(土)

会場：琉球大学 教育学部 附属教育実践総合センター  
沖縄県中頭郡西原町字千原1番地

開催担当：徳村朝昭(日本国際協力センター沖縄支所)

研究会への参加は、当日受付にて同研究会の報告集(1000円)をご購入いただければ、一般の方でも可能です。

9:45 受付開始

プログラム：

発表時間：発表1件につき、25分(発表20分、質疑5分)の持ち時間です。

10:10~11:50 -----

- (1) ホームページ上での概念・イメージからの発話生成  
吉本 啓(東北大学)
- (2) 附属学校におけるWebデータベースシステムの学習への活用について  
木本 守(琉球大学教育学部附属小学校)、比嘉 昭博・長田 智和(琉球大学理工学研究科)、谷口 祐治(琉球大学総合情報処理センター)、新田 保秀(琉球大学教育学部生涯教育課程情報教育コース)
- (3) 非同期での意見交換を支援する対話情報視覚化ツール“議事録”の開発  
知久 大興(電気通信大学)、井上 久祥(上越教育大学)、松居 辰則・岡本 敏雄(電気通信大学)
- (4) ネットワークを利用する遠隔講義講座の構成に関する一検討  
前迫 孝憲(大阪大学)

11:50~13:00 ----- 昼食 -----

13:00~14:15 -----

- (5) 高等教育機関における情報基礎教育をどうとらえ、どのように実施するか  
大作 勝(安田女子大学人間科学科)
- (6) 教科情報「モデル化とシミュレーション」の教材開発  
中野 勝之・正司 和彦(兵庫教育大学)
- (7) 学習環境の拡張に関する理論とその実践  
西端 律子・菅井 勝雄(大阪大学)

14:15~14:25 ----- 休憩 -----

14:25~15:40 -----

- (8) チャットを中心とした日本・モンゴル交流教育の実践研究  
苅宿 俊文(大東文化大学)
- (9) P2Pによる素材共有がもたらす遠隔国際協力実験  
吉田 雅巳(メディア教育開発センター)、ブンマラサウェートジャンタナ(タイ国教育省私学教育局)
- (10) 「国際教育協力論」の授業とマルチメディア活用  
大隅 紀和(京都教育大学)

16:00 閉会 -----

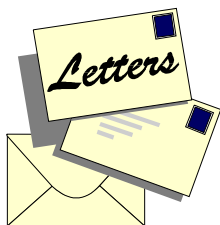
#### 会場へのアクセス

##### バス 番線 路線

- ・高速 111 「空港」(沖縄自動車道) 「琉大入口」：40分 670円 1時間に1本
- ・高速 123 「空港」(沖縄自動車道) 「琉大入口」：40分 670円 1時間に1本
- ・路線 97 「バスターミナル」 国際通り(牧志) 儀保(首里) 琉大附属病院 琉大東口 「琉大構内」  
50分520円 20~30分に1本
- ・路線 98 「バスターミナル」 国際通り(牧志) (330号線バイパス経由) 沖縄国際大学前 「琉大構内」  
40分520円 20~30分に1本

詳細は、下記の地図と交通を参照してください。

<http://www.u-ryukyu.ac.jp/>



研究会の発表募集

## 教育学における新しい研究方法論

日時：2002年1月26日(土)

会場：名古屋大学教育学部(大学外の会場に変更の可能性あり)

開催担当：大谷 尚 otani@educa.nagoya-u.ac.jp (名古屋大学大学院教育発達科学研究科)

### 募集内容：

教育学では近年、エスノグラフィー、グラウンディッド・セオリー、ナラティブ・アプローチ、認知心理学における社会文化的アプローチなど、多様な質的研究手法が用いられるようになってきています。また、量的研究手法としても、データ・マイニングなどの新たな手法が用いられる可能性も出てきました。これらはその手法とその成果において、教育学研究の主流であった従来からの量的、実証的、仮説検証的アプローチとどのように異なるのでしょうか。

本研究会では、教育学における新たなアプローチを用いた研究発表や、そのようなアプローチそのものについての発表を持ち寄り、教育学の将来について議論を深めたいと思います。なお、教育学領域一般の発表も受け付けております。

応募：研究会のWeb Pageの「発表申し込みフォーム」より応募してください。なお、当該研究会の「発表申込状況」で申し込み者氏名が確認できます。

申し込み締切：2001年11月24日(土)到着分まで。締切後、応募者宛に11月30日(金)に発表の採択結果を電子メールにて連絡いたします。また、採択者には執筆要項が電子メールにて送付されます。

1 原稿見本(原稿枚数は、発表件数で変動します)

<http://www.nime.ac.jp/EduTech/sippitsu/mihon6.PDF>

2 「キーワード一覧」(PDF形式)

<http://www.nime.ac.jp/EduTech/sippitsu/keyword.PDF>

原稿提出：2001年12月21日(金)必着。

原稿提出のない場合、発表取消とします。

注意：別刷りは廃止となりました。ご了承ください。

### 研究会の今後の予定



今年の研究会、残すところ後2回となりました。会場では、発表者との質疑はもちろんですが、同じ関心をもった研究者・教育関係者が集まり、さまざまな方と意見交換される場としても活用していただいております。会員の皆様には、教育学領域の研究の最新情報を入手されるだけでなく、ぜひ、発表して意見を求める場として利用いただけます。

11月3日(土) 研究会開催『ITと国際協力』

琉球大学

2002年1月26日(土) 研究会開催『教育学における新しい研究方法論』

名古屋大学

特別講演「テクノロジーと教育のラショナル(仮題)」G.Salomon 教授

(「Interaction of media, cognition, and learning」「Distributed cognitions」などの編著でも有名)

3月2日(土)\*<sup>1</sup> 研究会開催『授業研究と教育評価』

宮城教育大学

\*<sup>1</sup> 入試日程などで変更される可能性があります。

### 研究報告集年間購読の勧め



研究会の報告集は、会員・非会員に関係なく年間予約により購読できます。予約価格：年6冊、各研究会平均15件の研究発表で、年間合計約500ページほどになります。価格は郵送料込みで¥3,500です(当日売りは割高になります)。学会事務局(研究会事務局とは異なります)までお問い合わせください。

学会本部事務局(〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-17-1 虎ノ門5森ビル(視聴覚ビル)2階  
TEL/FAX: 03-5251-2133 jet-office@japet.or.jp)

### 研究会事務局

今年度中に研究会事務に関わる組織・運営体制が変更となります。1月研究会に関わる手続きから少しずつ新体制への移行を進めていく計画であります。研究会でのご発表を予定されている会員各位におかれましては、スケジュールなどにご注意いただきますようお願い申し上げます。

日本教育工学会研究会事務局

〒261-0014 千葉市美浜区若葉2-12

メディア教育開発センター 研究開発部内

Facsimile 043-298-3476

e-mail: jet-branch@nime.ac.jp

# 日本教育工学会「秋の産学協同セミナー」開催案内

- e-learningのビジネス化に向けた現状と期待 -

e-learning

B to C

e-learning

e-learning

e-learning

( A5 )

e-learning

NTT

e-learning

e-learning

e-learning

NTT

NTT

shinohara.m@east.ntt.co.jp 03-5200-6969

goto@fushigi.net 03-5958-1751

**2001年度 冬の合宿研究会 開催案内**

## 日本教育工学会「夏の合宿セミナー」実施報告

園田学園女子大学 原克彦

毎年恒例の「夏のセミナー」が、9月7日・8日の2日間にわたって、兵庫県氷上郡で氷上郡教育委員会と氷上情報教育研究会の後援を得て開催された。当初予定の100名を大幅に上回る150名が参加し、情報教育の目指す方向などをテーマに熱い研究会となった。

1日目は、午後から小学生による遠隔共同学習の授業参観が郡内の春日町と市島町の2つの小学校をテレビ会議システムで結び行なわれた。4年生と5年生の異学年交流で、それぞれの校区内に流れている川に関する内容を紹介し合い、その中から問題点などを考えるという交流を行なった。最初は、自分たちの調べたことをもとにして、互いの意見や考えを発表し合い、その後相手の考えに対する意見を発表する活動が行なわれた。

授業後、テレビ会議などの難しさや問題点などについて、静岡大学の堀田先生が司会者になり、2つの小学校とメイン会場の三地点をテレビで結んで参観者が意見交流を行なった。児童が互いにテレビ画面だけを見ながら意見を交換したり考えを話し合ったりするのは難しいのではないかと、黒板などを利用してまとめたり、テレビ会議から一旦離れて互いのクラスで考えてから再度つないで交流してはどうだったかなどの提案も出された。また、研究者からは、知らない相手のことを考えて話す力や回数を重ねることで仲間として意識しながら討論ができるようになっていくこと、最後には一緒に考え取り組んでいけるようになることなどの共同学習の流れの整理も行なわれた。短い時間の中で参加者が活発な意見を出し、授業提案校にとっても有意義な意見交流会であった。

その後、会場を、山の中の施設に移しての夕食会とナイトセッションが行なわれた。夕方まで降っていた雨もようやく上がり、それぞれの地域や大学から集まった土産などを肴にしながら、「交流学习成立の条件」「カリキュラムの作成」「課題設定の方法」「総合的な学習の評価」「教科と情報教育」の5つのテーマに分かれて22時過ぎまで熱い話し合いが展開された。討論はここでは終わらず、夜の帳が降りきったあとも有志が20名ほど集まり、厳しい討議と交流が行なわれ続けた。結局、山に静寂が戻ったのは午前3時ごろだった。

このナイトセッションの中の「教科と情報教育」では、氷上郡の情報教育研究会が作成した生きる力と情報教育に関するマトリクス表を元にしなが、情報教育と教科の関連について話し合われた。その中で、小学校の国語の指導要領の内容が情報教育の目標と密接に関連しているのではないかという意見や、情報教育の学年別の目標リストの概要説明なども飛び出した。普通では得られない情報などを聞くことができた。情報教育はすべての教科の根底に流れるものではあるが、教科と情報教育の関係がまだ明確ではないということも明らかになり、これからの重要な課題だという共通認識が得られた。



明けて2日目は、朝の9時からナイトセッションの発表会が行なわれた。「課題設定の方法」では、課題設定に至るまでの流れの例として、豊かな体験→気づき→問題発見→課題設定が示され、このような流れを繰り返しながら学習者自らが課題を見つけ出すことができるようになることが大切だという報告が行なわれた。

次に、5件の研究発表が行なわれた。4件目の氷上郡の婦木先生からは、「分散知を重視した学習プロセス構築のための実践的研究」についての報告が行なわれた。課題をつかむ時点の学習活動を重視し、こどもの頭の中にある、漠然とした課題への興味を集約する工夫をどのように行ない、課題をつかませるのかの説明があった。尼崎市の米田先生の「楽しく学ぼう！Web教材を使った算数の学習」では、開発中の電子教科書を活用した授業例が報告され、10年後にはこうなってしまうのではないかという予感を感じさせられるものであった。この他に、「交流学习における定点観測カメラシステムの構築と運用について」、「情報教育におけるルブリック（評価指標）の開発とその授業利用の研究」、「総合的な学習のカリキュラム開発における学校組織論的研究」など、興味深い発表が行なわれた。

午後からは、「情報教育のこれからの方向」をテーマにディスカッションが行なわれ、コーディネータである富山大学山西先生を中心に進められた。4名の話者提供者からは、「先生がどのように情報活用の実践力をつけるのか」、「ベテラン教員が情報教育にどのように取り組んでいるのか」、「情報教育の研修をどう進めるのか」などの考えが出された。会場からもいくつかの意見が出され、現時点での情報教育の問題点やこれからの進め方等について真剣に考える機会となった。

最後に、ここまでの研究発表やディスカッションの内容を踏まえ、聖心女子大学の永野和男先生が、「情報教育の目指す方向」という演題で、情報教育の実践の勧め方や、それらの評価をどのように行なえばよいのかなどについて約1時間講演された。特に、情報教育の評価については、具体的な評価表を配布し、それが作成された経緯をはじめ、どのように利用すればよいのか、また総合的な学習の時間との関わり等について概要を述べられた。参加者にとっては、どれも最新の情報であり、またこれからの情報教育の方向の指針となるものとして熱心に聞き入っていた。

夏休み明けの忙しい時期に、150名もの参加者に対して、事前準備から当日の会場設営、宿泊施設、食事の手配、交通手段の確保まで細部にわたり心遣いをいただいた氷上情報教育研究会のみなさんに、この場を借りてお礼を述べ、感謝の意を表したい。また、本来であれば企画委員会で整理すべき内容ではあるが、今回のセミナーに参加された静岡大学の堀田研究室のゼミ生諸君が、議事録や写真などを下のURLに整理されているのでここに紹介する。

URL <http://horilab.ia.inf.shizuoka.ac.jp/2001gasshuku/>

本セミナーの運営や進行に協力いただいたみなさんと互いに感謝し合いたい。ありがとう。

# 委員会名簿

## 研究委員会

### 委員長

菅井 勝雄 (大阪大学)

### 副委員長

岡本 敏雄 (電気通信大学)

正司 和彦 (兵庫教育大学)

### 研究会幹事

西端 律子 (大阪大学)

三尾 忠男 (早稲田大学)

松居 辰則 (電気通信大学)

### 副幹事

野中 陽一 (和歌山大学)

近藤 智嗣 (メディア教育開発センター)

### HP 担当

植野 真臣 (長岡技術科学大学)

### 委員

林 徳治 (山口大学)

任都栗 新 (東京学芸大学)

徳村 朝昭 (国際協力センター沖縄支所)

大谷 尚 (名古屋大学)

本間 明信 (宮城教育大学)

三宅 正太郎 (大分県立芸術文化短期大学)

黒田 卓 (富山大学)

井上 久祥 (電気通信大学)

大河原 清 (岩手大学)

大作 勝 (安田女子大学)

加藤 隆弘 (金沢大学)

中野 彰 (武庫川女子大学)

本田 敏明 (茨城大学)

波多野 和彦 (メディア教育開発センター)

森廣 浩一郎 (兵庫教育大学)

## ホームページ委員会

### 委員長

池田 満 (大阪大学、ホームページ担当理事)

### 委員

植野 真臣 (長岡技術科学大学 研究会委員会)

向後 千春 (富山大学、編集委員会)

佐々木 整 (拓殖大学、ニューズレター委員会)

園屋 高志 (鹿児島大学、大会企画委員会)

成田 雅博 (山梨大学、評議員)

村川 雅弘 (鳴門教育大学、顕彰委員会)

山西 潤一 (富山大学、企画委員会)

横山 節雄 (東京学芸大学、総務担当理事)

吉崎 静夫 (日本女子大学、出版委員会)

## 第9期第2回理事会議事録

日 時： 平成13年7月7日(土) 15:10~16:50

会 場： (社)日本教育工学会(JAPET)会議室

出席者： 清水康敬会長、赤堀侃司・池田 央副会長、池田 満、伊藤紘二、大谷 尚、岡本敏雄、坂元 昂、菅井勝雄、鈴木克明、園屋高志、竹谷 誠、永野和男、中山 実、前迫孝憲、村川雅弘、山西潤一、横山節雄、吉崎静夫の各理事、小林事務局次長

1. 第9期第1回理事会議事録の承認
2. 会員の異動について
  - (1) 川本佳代君はじめ、計14名の入会(正会員9名、学生会員5名)を承認した。
  - (2) 後藤実和子君はじめ、計5名(維持会員1社、正会員4名)の退会(休会含む)を承認した。
3. 各種委員会の報告について
  - (1) 編集委員会
    - ・赤堀副会長より、論文誌編集状況と刊行予定についての説明があった。また、学術情報学研究所への論文誌データベース登録について、著者の了解文書(案)を役員メーリングリストに流し、意見を聞くようにすることとした。
  - (2) ニュースレター委員会
    - ・竹谷委員長より、111号、112号のニュースレターの内容・編集状況についての報告があった。
  - (3) 出版委員会
    - ・清水会長より、出版委員会は学会ホームページでの出版や書籍のみならず、電子媒体も含め、検討して欲しいとの発言があった。また、特集号のテーマを啓蒙的なものにするなどを検討することとした。
  - (4) 企画委員会
    - ・永野委員長より、総会のシンポジウム、夏のセミナー、秋のセミナーについての報告があった。また、委員の交代は、6月総会時にしたいとの提案があり、これを承認した。
  - (5) 研究会委員会
    - ・菅井委員長より、研究会開催と今後の予定についての報告があった。
  - (6) 大会企画委員会
    - ・清水会長より、委員会の体制について、鹿児島大会までは伊藤委員長体制とし、来年度については、新しく考えて欲しいとの発言があった。また、伊藤委員長から、大会の企画については、新しい内容の企画を盛り込んで検討していくことが報告された。
  - (7) 学会ホームページ委員会
    - ・池田委員長より、基本コンセプトについての報告があった。また、プランニングのための委員会を設けることが承認された。さらに、一般公開も含め、情報提供先・内容についても検討していくこととした。
  - (8) 顕彰委員会
    - ・村川委員長より、今年の研究奨励賞・論文賞の候補についての報告があったが、年齢制限など、規定の見直しを委員会に付託した。また、ショートレターや資料なども顕彰の対象にするかなど、今後の顕彰のあり方を検討することとした。
4. 教育工学会の委員会業務について
  - ・清水会長より、委員会のメンバーと役割について、ニュースレターに掲載する準備をするよう依頼があった。今後、学会事務局と各委員会の作業分担を明確にし、会の円滑な運営を図っていくこととした。
5. 会員名簿の発行について
  - ・清水会長より、会員名簿の発行についての報告があった。
6. その他
  - ・清水会長より、維持会員企業からの推薦依頼についてのルールづくりの提案があった。
  - ・次回開催 平成13年8月31日(金) 16:30~18:00(終了後夕食)

## ■ 正会員 34名

小林 悦雄 (立教大学)  
 長島 忍 (立教大学)  
 森本 雅子 (日本学術振興会特別研究員)  
 山口 悦司 (宮崎大学教育文化学部)  
 佐野 智行 (姫路獨協大学)  
 柴田 朗 (仙台市立中山中学校)  
 成田 滋 (兵庫教育大学)  
 今西 利之 (熊本大学)  
 山島 一浩 (東京家政学院筑波女子  
 大学短期大学部)  
 下坂 素子 (トライデントホテル  
 サービス事業専門学校)  
 鈴木 京子 (日本大学)  
 鈴木 一秀 (株式会社イー・ナレッジ・  
 コンテンツ)  
 磯崎 喜則 (日本学園中学・高等学校)  
 馬越 庸恭 (東京工業大学)  
 植木 正裕 (国立国語研究所)  
 室井 みや (日本大学)  
 匂坂 智子 (玉川大学)  
 齋藤 裕美 (湘南国際女子短期大学)  
 藤田 哲也 (京都光華女子大学)  
 佐藤 仁 (大阪商業大学)  
 佐々木 由香 (三重県立看護大学)  
 飯田 慈子 (大阪電気通信大学  
 短期大学部)  
 深見 友紀子 (富山大学)  
 山本 高美 (和洋女子大学)  
 楓 森博 (岐阜女子大学)  
 一色 裕里 (メディア教育開発センター  
 共同研究員)

長倉 伸子 (ルーテル学院高校)  
 尾崎 悠子 (田布施町立田布  
 施西小学校)  
 栗田 るみ子 (東洋大学)  
 山崎 敏範 (香川大学)  
 田中 每実 (京都大学)  
 福永 由佳 (国立国語研究所)  
 荒木 光彦 (京都大学)  
 松島 隆 (群馬県太田市立北中学校)

## ■ 准会員 4名

五十里 美和 (神戸大学)  
 林 誠 (砺波市立鷹栖小学校)  
 新井 加受子 (園田学園女子大学)  
 金田 智子 (国立国語研究所)

## ■ 学生会員 41名

内垣戸 貴之 (金沢大学)  
 中島 透 (図書館情報大学大学院)  
 大久保 亮治 (大阪大学)  
 山崎 龍太郎 (大阪大学)  
 岩切 淳 (宮崎大学)  
 松田 潤 (大阪大学)  
 中野 勝之 (兵庫教育大学)  
 上地 宏一 (慶應義塾大学)  
 坂本 英祐 (東北学院大学)  
 中野 明 (九州工業大学)  
 菊地 秀文 (東京工業大学大学院)  
 加藤 由樹 (東京工業大学)  
 加藤 尚吾 (東京工業大学)  
 佐藤 弘毅 (東京工業大学大学院)

松崎 夢 (東京工業大学)  
 増尾 剛 (東洋大学)  
 小野 幸子 (岩手県立大学)  
 三輪 勉 (関西大学)  
 戸次 徳久 (東京工業大学)  
 川島 博嗣 (宮崎大学)  
 坪井 龍太 (東京学芸大学教育学部  
 附属高等学校大泉校舎)  
 澤谷 孝志 (東京工業大学大学院)  
 可越 (東京大学大学院)  
 宮下 芳明 (富山大学大学院)  
 呉 鵬沢 (新潟大学大学院)  
 高橋 浩 (岩手県立大学大学院)  
 平賀 健 (千葉工業大学)  
 田島 貴裕 (高等教育センターN213)  
 鎌谷 尚夫 (兵庫教育大学)  
 八杉 泰 (拓殖大学大学院)  
 中西 理恵 (兵庫教育大学)  
 茂木 良治 (上智大学)  
 川口 倫央 (早稲田大学)  
 船川 豊 (兵庫教育大学大学院)  
 藤本 貴之 (国立北陸先端科学  
 技術大学院)  
 田中 岳彦 (三重県立久居高等学校)  
 林 なおみ (新潟市立関屋小学校)  
 松浦 匡 (東京大学大学院)  
 朝川 哲司 (東京大学)  
 辻 亮介 (福岡工業大学)  
 林 雄介 (大阪大学)

## お知らせ

本年度よりニューズレターは本学会ホームページにも掲載されておりますので、ご参照ください。

URL <http://www.japet.or.jp/jet/>

## 学会日誌

11月2日(金) 秋の産学協同セミナー (アーバンネット大手町ビル18階)  
 11月3日(土) 研究会「ITと国際協力」 (琉球大学)  
 11月23日(金) ~ 24日(土) 第17回全国大会 (鹿児島大学教育学部)  
 2002  
 1月26日(土) 研究会「教育学における新しい研究方法論」 (名古屋大学)  
 特別講演「テクノロジーと教育のラショナル(仮題)」G.Salomon 教授  
 (「Interaction of media, cognition, and learning」「Distributed cognitions」などの編著でも有名)  
 3月2日(土) 研究会「授業研究と教育評価」\* (宮城教育大学)

\*入試日程などで変更される可能性があります。

拓殖大学工学部情報工学科 FAX: 0426 - 65 - 1519 E-mail: jet-news@cs.takushoku-u.ac.jp

105-0001

1-17-1

5

電話 / FAX: 03 5251 2133 E-mail: jet-office@japet.or.jp

00180-0-111042